

川島町での政策研究プレゼン
—政策研究員選考をかねて—

Ee19023 竹未愛瞳

●川島町

川島町は埼玉県の中の川越市よりも北に位置する町で圏央道が通っている。

勝浦ゼミ生が政策研究をはじめたころの7月には広大な田園風景に圧倒されていた。

●川島町での政策研究

研究対象の行政系地域

→2035年開校を目標とした小中一貫校設立、平成の森公園のリニューアル整備、
集約された公共施設の更新時期を踏まえた再整備など、複数事業が関係する地域。

目的

→まちづくりの中心となるエリアとして位置付けることを想定。場当たりの整備とせず、
町の将来を見据えた一体的な活用構想をまとめることが望ましい。

行政系地域の活用案について、産官学が連携した政策研究により策定。

研究は、町職員、かわじま☆未来塾、TJUP 会員校学生、公募町民でチームを構成し実施。

研究内容

→①対象区域の活用案作成 ②整備スケジュール案作成

●7月17日 トレジャーハンティング

各自、自力で川島町に入り、未来を見据えてお宝と思える物、場所、景色などを、
撮影して周りながら、14時に川島町役場に集合。お宝と思う理由をメモ。マッピング。

●実際に私が見つけた川島町の魅力トップ5

① 地質、水に恵まれ静かな田園風景

田園で土地が平坦→遠くの山を大きく見られる

水がきれい→メダカがたくさん泳いでいた

② 子どもが好きな食べ物がある

川島農産物直売所→手打ちうどん弁当、川島産の野菜、
社会福祉法人ウイングの川島カレーやクッキー

金笛→醤油ソフト、角煮丼、焼きおにぎり、牡丹だんご

③ 自然を楽しめるサイクリングコース

川島町観光ガイドマップ上の芳康いちじく園あたり→地球が丸いことを実感できる

④ 遊覧飛行・スターライト

小型飛行機やヘリコプターは、公共交通機関とは違う→自分で予定を決められる

※2021.6時点ではコロナにより運休

⑤ 買い物に便利

圏央道近く→生活に必要なものをここだけで買うことができる

生活には車が必要不可欠

●7月26日 プレゼン

7月17日で見つけたお宝についてのプレゼン。

各自5～10分程度。聴き手は川島町政策推進課職員。

●私のプレゼン内容

平成の森公園リニューアル整備のポイント

○川島町を象徴するエリアを表現

建物→水没が予想される3～5m、5階以上の高さ、インパクト。

浸水した場合1～2週間その場に取り残される可能性を加味したつくり。

すでに町外に川島町民の6000台分駐車場は確保してあるが、さらに町内にも高い所に駐車スペースを確保。

○リピーターとして来訪したくなる仕掛け

シンプルかつわかりやすい案内所

→川島町へ訪れた人たちへの体験予約や案内・宣伝。

Ex.) 芳康いちじく園見つけられず(地元の人に聞いても分からず)

国登録有形文化財 鈴木家住宅(住宅であるためどこまで見学できるのか迷った)

サイクリングス

→例えば金笛でレンタサイクル実施しているため各所と情報共有しながらマップ作成したい。家族連れに向けた休憩スポットの充実(川島農産物直売所にシャワーがあれば便利ではないかと考えた)。

田んぼアート

→行田では世界最大としてギネス認定。7月中旬が見頃。日本を象徴する米を使った芸術活動。収穫した米で長期保存できる米粉麺を作り、防災備蓄食とする試みもはじめる。

○多様な使い方に対応できるフリーエリアの確保

航空公園→広場に防災かまどベンチ。普段はベンチ、緊急時はかまどとして使用できる。

○利用者の年齢や来訪理由にフィット

幼稚園～小学低学年連れ家族→農業体験、稲刈り体験、すったてうどん、ソフト

休日→軽食の移動販売車や城西大学経営学部のローカルヒーローに依頼する。

○収益を生む観光拠点化

高齢化による人手不足で休耕田となったところで貸田園、貸農園、マルシェ、BBQ、直売所で買い物、いちじく狩り

すったてうどんが有名→民間の山田うどんとコラボできたら川島町の認知度が上がるか

(埼玉でも川島という所を知らない人が多い印象)

●参加者数 40名 うち城西生 18名

研究期間 令和3年9月～12月(中間報告会11月予定、成果報告会12月予定)